

明 倫

まちづくり NEWS

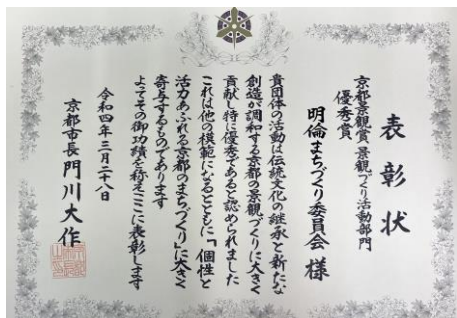
第2号 2022.5.10

発行
部数
2000部
明倫まちづくり委員会

- ◆ 「まちづくり委員会」受賞！
- ◆ 明倫幼稚園の思い出
- ◆ 「自治会館」

京都景観賞・優秀賞受賞！

～明倫まちづくり委員会～



令和3年11月12日に令和2年度京都景観賞 景観づくり活動部門において37団体の中で京都市より「優秀賞」(9団体)を受けました。

京都景観賞とは「伝統と創造が調和した景観づくりを市民・地域ぐるみで進めるため」平成24年度に「京都景観賞」を創設されました。この中の「景観づくり活動部門」において、明倫学区まちづくり委員会の活動が優秀賞を受賞しました。

明倫まちづくり委員会は「祇園祭を受け継ぐ風格のあるまち、商いと暮らしが響き合うまち」として、学区の魅力を次世代に引き継ぐために、「地域のデザインルール、生活ルールをまとめた「明倫ルールブック」を作成し、明倫学区の歴史ある街並み景観に配慮した建築物、広告などを求めています。また「夜話の座」などで、新しくマンション居住の方々と共に、地域の歴史・祇園祭りなどの活動にも取り組んでいます。審査委員長の宗田教授は「景観は暮らしと営みの現れです。身近な景観を守ることで安心感が生じます。ご町内とも連帯感が高まり、隣人を身近に感じることにな

ります。そのような思いで活動されたまちづくり委員の方々を「景観づくり部門」として表彰します。」と述べられました。歴史ある京都中心部において、皆様方と共に「これからの明倫」を一緒に創って行きたいものです。

自治会館アンケートについて

令和3年4月に京都市によって、自治会館の耐震診断が行われ、災害発生時の避難場所としては不適格とのことでした。昭和12年、明倫学区の人たちの寄付金によって、明倫幼稚園が設立され「まちなかの幼稚園」として、自然に親しめるように築山や、樹木を植えた教育環境の中で、子供たちを大切に育ててきました。平成8年に閉園になりましたが、平成15年から「きっずばあく」など子育て世代交流の場として、地域の人たちからも親しまれてきました。

令和3年12月に建て替えるか、耐震補強にするかのアンケートを全住民1950世帯に対し、2回にわたり実施しました。第1回アンケート結果は回収総数259票の内、保存しない→最多回答97。建て替えて、商業施設の併設も構わない→107でした。令和4年1月の第2回目のアンケートは総数205票の結果(結果については全戸配布済み)。建て替え時の希望として、集会所が160、会議室が148など。併設されても構わない施設として、老人福祉施設120、託児所105などです。

村尾理事長は「明倫自治連合会としましては、第1回、第2回のアンケート結果を踏まえ、令和4年度総会において、京都市に対する学区民の意見(思い)を「要望書(案)」にまとめ、総会の場でご審議いただき、総会決議を経たうえで、要望書を提出したいと考えています。自治会館の今後の在り方について、学区民にとって極めて重要な事柄であると考えています。」とのことでした。

記(まちづくり委員井上成哉)

特集：明倫幼稚園の思い出

➤ 心のオアシス ～元明倫幼稚園園舎・園庭～



(昭和62年度～平成4年度 6年間 教頭として、平成4年度から平成7年度(閉園)まで3年間 園長として9年間奉職されました。)

元明倫幼稚園 大田木 裕子 園長

元明倫幼稚園は、町の喧騒が嘘のような、落ち着いた心やすまる異空間です。むっくりと木のぬくもりのある平屋建ての園舎。奥まった園庭は木々の緑に囲まれ、夏は蝉しぐれ、秋にはどんぐり拾い。タイサンボクの舟のような形をした大きな花びら・大きな葉っぱは砂場でままごとの器に。時には小さな小さな池にどこからか水鳥がやってきて、子どもたちは目を輝かせていました。ある初冬の朝、前夜の風で園庭中がカサカサに乾いた檜、桐、イチョウ、モミジ、藤などの葉っぱで埋もれていました。子どもたちは両腕いっぱい枯葉を抱きかかえ、総合遊具の上から降らせたり、

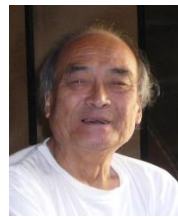


明倫幼稚園閉園記念誌より

築山の長い石の滑り台を上まで葉っぱで埋めて、「葉っぱの滑り台!!」と友達と連なって滑ったり。枯葉まみれになって、いっぱい感じ、考え、工夫し、動き回って、一日中嬉々として遊びました。あの笑顔と情景が忘れられません。街中とは思えない自然と木のぬくもりが、長年たくさんの人々、子どもたち・保護者・地域の方たちの豊かな心を育んできました。この素晴らしい空間が、地域の人々の心のオアシスであり続けることを切に切に願います。

～元明倫自治連 理事長としての思い出～

(聞き手：井上)



★ 吉田考次郎 さん 六角町

2007～2011 在任

「もうずいぶん昔になるけど、通園してました。小さいながら築山があって、その下にトンネルが…。足洗場みたいなプール(?)もあり、魚も泳いでいたのを覚えている。大きな積み木と共に、ガキ大将ごっこしてたな…。」「明倫には公園も無いし、子供達と共に大人から、お年寄りまでが集って、くつろげる場所が欲しいものだ…。」



★ 酒井英一 さん 百足屋町

2012～2014 在任

「京都の室町という、自然もない土地で、当時の地域の人たちが寄付をしあって、小学校を造り、幼稚園まで創ってきました。都会の真ん中で育つ子供達に、自然を味わせる、地域の人たちにとっても大切な場所だと思います。」

「私も、自治連会館として使っていた時の思い出は…庭の山、そしてトンネル。桜の下で、地域の人たちとお酒などを交わし、色々なお話をしていたのは、今から思うと印象深く、大事なことだったと思っています。」

「私が自治連理事長時代に、駐車場入り口のフェンスを、アートセンターに来ていた芸大の学生さんが、美しく塗装してくれたのが印象に残っていますネ」



★ 長谷川明 さん 釜座町

2015～2018 在任

大人になって自治連活動をここですると思ひもありませんでした。多分昭和27年、団塊の世代第1団目の卒園生だと思います。4クラスあり私は早生まれの赤組でした。部屋がなく、遊戯室の片隅が自分たちの部屋でした。その遊戯室には巨大な積み木があり、これで遊びたいと思っているのですが、青組のやんちゃくれに取られて悔しい思いをしたこと、トンネル、築山、祖母が作ってくれたお弁当のことなど懐かしい思い出です。

～第一回の卒園生として～



熱弁を振るう高谷さん

★ 骨屋町 高谷 皎二

昭和12年11月に明倫幼稚園が新設され、それまで通園していた日彰幼稚園から転園した。それまで明倫

学区の園児は烏丸通の電車を横断しての通園のため、往復に毎日付き添い（商店では主に丁稚さんやおなごっさんなど）が必要だったのが不要になり、家人は大いに喜んでいました。新しい園舎はピカピカで、広い遊戯室や緑の樹木に囲まれた園庭・砂場・築山などすべてが明るく、物珍しく、大喜びで早速走り回ったものだ。結局在園期間は5か月で引き続き向かいの明倫小学校に入校になるが、第一回の卒園生である。今回耐震構造上の問題で、旧園舎はすべて取り壊されることになり誠に残念と言わざるを得ないが、郷愁ばかりにこだわっていても仕方がない。しかしその場所に新設される建物については、充分なご配慮を頂きたい。自治会館の跡地の今後については現在の建物撤去後にどのような用途で、どのような建物を建てるべきか、との意見を求められているのだと思うが、現段階で土地・建物の所有者である京都市から「新しい建物には明倫自治連合会で必要とする諸施設を設置する」との意向が確認されているのですか？学区ごとの自治活動を求めている行政としては当然のことだと思うが。

また、建て替え資金の調達方法などのアイデアも求められているが、京都市との話し合いがどの程度まで進行しているのかも不明のため、なんとも回答のしようがない。昭和6年の小学校建て替え時・昭和12年の幼稚園建設時に献身された学区内諸先輩のような馬力が全くないのは残念なことです。

小生は「芸術」を軽視する訳ではないが、現在の旧明倫小学校施設の「芸術センター」での使用状況を京都市で再検討してもらい、自治連合会でもっと使用できるようにしてほしい。

きっずばあく in 明倫

～「公園デビュー?!」～

明倫学区民児協会会長 長谷川久美子

今、懐かしい一枚の写真を手にしています。旧明倫幼稚園の遊戯室に、ちびっこママ達が大集合！そこに、ピンクのエプロンを付けた主任児童委員が、赤ちゃんをあやす姿や若いママの話を聞いている風景が写っています。皆、楽しそう



で、どの顔も笑顔です。

平成14年12月11日

第一回「きっずばあく in 明倫」京都市の中でも先行した子育て支援（親子の遊び場）が旧明倫幼稚園遊戯室で幕を開けました。中京区子供支援センター、区社協、

保健所、保育所そして地域の担い手として全学区から主任児童委員の協力「きっずばあく in 明倫」は口コミで広がり毎回多くの参加者が、この遊戯室に集まりました。児童公園の無かった明倫にはじめて出来た公園—「きっずばあく(公園)」。参加者から「このような場所を探していた」「雨の日でも、ここに来たら子供をのびのび遊ばせる事が出来て嬉しい」「ママ友が出来た」等々、喜びの声を頂き、参加スタッフからは、会場提供した明倫学区への感謝と「きっずばあく in 明倫」の魅力の一つが遊戯室である事を聞いています。

この活動は中京区全体に連鎖を生み現在は、ほぼ全学区で開催されています。そして二十年の歳月が流れました。…「旧明倫幼稚園遊戯室」は令和3年4月30日以降閉鎖、向いの芸術センター内に仮住まいです。また、治まらぬ感染症の為、休会をせざるを得ない状況も続いて、子育て世代や子供たちの成長を見守り続けてきた明倫幼稚園の桜は、どう感じているのでしょうか。……。

夏に藤棚の下でビニールプール、親子で染め遊び作品を手に記念写真、築山のある園庭、寒い冬に遊戯室を満たす穏やかな日差しが、地域に知り合いのいない親子の温かな受け皿になっていた時間が、とても懐かしく思い出されます。

思い出の旧明倫幼稚園



明倫幼稚園は、平成8年に閉園となりました。写真は、その前の年の平成7年入園式のもの

です。桜の花が綺麗に咲いています。桜の花のピン

ク色と幼稚園のクリーム色のレンガの壁・扉や窓枠のピンク色で温かみを感じる建物は園児達を優しく迎えてくれました。当時の園児数は、年長・年少あわせても20名足ら



ずで、こどもの日のお祝いもみんな一緒に楽しみました。遊戯室では、跳び箱や平均台の運動をはじめ大きな積み木を組んだり、みんなでジャガイモをむいてカレーを作っ

たりしました。参観日には、親子で鬼ごっこをして遊んだ思い出もあります。

園庭では、築山からの滑り台やフジ棚の下での砂遊びや泥遊びも楽しい思い出です。

幼稚園の門から園庭に通ずる通路にシートをひいて小麦粘土遊びなど体を使ってたくさん遊んでいました。明倫学区には数少ない自然に触れることができる空間・環境だった場所は子供だけでなく大人も集う憩いの場所でした。明倫学区にはたくさんの卒園生がおりますが、当時の思い出を語ってもらえればと思います。

卒園生の親より

「地域のための、自治会館再生に向けて」

京都に憧れて、菊水鉾町のマンションに住んで20年。祇園祭時には、母が数日滞在して、二人で山鉾建てを巡り、懷石料理も堪能し、喜んで帰ったこともなつかしい思い出となりました。

祇園祭の「まち」にふさわしい、景観に配慮し、地域住民が気軽に集い、癒され、緑地も残した…そういった自治会館再生に向けて、十分な論議がつくされることを期待します。

菊水鉾町 Tさん

「自治会館とは」

自治会館の補強か建て替えかという事態になって初めて、自治会館とは何か、どんなものが必要なのか考えてみた。会議室、ホール、展示場などあれば、自治活動には足りる。これらはみんな芸術センターの中に存在する。困難な話と言われているが、商業施設が入ってくることや建て替えの費用などを総合的に考えれば、芸術センターの活用こそが一番合理的であると思う。昭和12年に明倫の先人たちが、街中の子供達に自然への親しみと体力の育成とを目的として作られた明倫幼稚園は、幼児教育のスタートの場として、狭い土地に出来る限りの広い園庭と花壇や築山トンネルを持ち、日光が充分入る遊戯室と教室などを配する造りであった。そして現在市内に残る唯一の元幼稚園であり、向かいの明倫小学校（現芸術センター）と対をなす存在でもあります。この地元に最もなじみのある小学校の利用に活路を求めるべきであって、先人の思いの詰まった元幼稚園跡地の今後についてはもっとじっくりと時間をかけて考えるべきだと思います。

まちづくり委員会 委員長 長谷川 明

～防災について～

防災・福祉委員 塩月佳世子

ドドドド～！！ グラグラ～！！

このところよく揺れるなあ!!大きな地震起こるんちゃう?? そんな時…

スマホの位置情報を利用して現在地の①地震予測

②ライフライン不通期間など検索できる

地震10秒診断/国立研究開発法人防災科学技術研究所があります。ぜひ、一度ご確認ください。

<https://nied-weblabo.bosai.go.jp/10sec-sim/>

地震や自然災害が起きたらどうするん? その時に備えて…

『もしも・・・に備える』我が家の防災行動計画

マイ・タイムラインについても家族で話し合うことが大切です。ウェブサイトから簡単に作成出来ます。

(京都市防災ポータルサイト マイ タイムライン検索

<https://www.bousai.city.kyoto.lg.jp/mytimeline/>

選択入力した項目が自動反映され、プリントが可能です。パソコンだけでなく、スマートフォンでも作成が可能です。このQRコードを読み取りアクセスしてください。



☆民生児童委員会からも右記の冊子

「赤ちゃんのいるお家の防災」を出しています。ご希望の方は

info@meirin-news.com へお申し込みください。



*A5サイズ

～受け継がれる活動の紹介～



令和3年度永年表彰明倫献血推進委員会が表彰状をいただきました。

4/15の献血に沢山のご参加ありがとうございました。

*明倫のまちづくりにご興味、ご関心のある方はまちづくり委員長長谷川(金座町)までご連絡をください
info@meirin-news.com または FAX 075-231-2450

編集後記。思い出(記憶)の「場」は、もちろん人それぞれによって違っていますが、地域にはひとつの共通の「思い出の場」があるのですね。現在の私達には、新しい刺激も多く、忘れがちなかもしれませんが…やはり、もう二度と帰ってこない「過去」を思い出すことは、実はとても大切なことなのではないでしょうか

(S・I)